



みなさん、こんにちは。

業務紹介第3弾として機械・電気・情報分野のうち航空関係の業務内容を、航空局交通管制企画課和田英嗣 新システム技術推進官（入省 11 年目）より語ってもらいました！



左は職場の様子、右は国際会議の様子  
（航空局和田新システム技術推進官（入省 11 年目））

1. 機械・電気・情報分野のうち航空関係業務の国交省における役割を教えてください。

四方を海に囲まれた我が国において、航空交通は人・モノの輸送を支える重要な交通手段の1つであり、東南アジアなどの我が国周辺諸国の急速な経済成長を背景に、平成の30年間で約2.5倍の航空交通需要の増加がありました。新型コロナウイルス感染が生じる前は、今後25年間の航空旅客数は、毎年平均で、全世界で約4%以上、アジア太平洋地域では約4~7%増加すると予測されておりました。現在、世界的なコロナ感染の影響で、短期的には航空需要増大に対し厳しい見方もありますが、世界経済のけん引役を担うアジア勢が勢いを盛り返し、中長期的には航空交通量が増加する可能性は極めて高いという声が根強いところです。

また、国際的には、持続可能な社会の実現に向け、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指す大きな流れがあり、航空の分野においても、安全を最優先とした、運航効率の向上（CO2 排出削減）への的確な対応が求められています。

2. 現在の目玉施策を教えてください。

航空機は国の境界をボーダレスに運航するため、管制の高度化に係るシステム構築には国際間の相互運用性の確保が必要不可欠であります。現在、航空局交通管制部では、産学官（エアライン・研究所・関係省庁）の関係者で構成される「将来の航空交通システムに関する長期ビジョン（CARATS：キャラッツ）推進協議会」を通じて、ICAO（国際民間航空機関）で策定されている世界航空交通計画と調和を図った2040年までの我が国の長期計画を共有し、新たなシステムや新たな管制方式の導入年度の調整を図り、航空交通システムの技術革新を推進しているところです。

【参考】CARATSの取り組み紹介：[http://www.mlit.go.jp/koku/koku\\_fr13\\_000006.html](http://www.mlit.go.jp/koku/koku_fr13_000006.html)

3. ご自身が担当されている業務内容について教えてください。

先ほど紹介したCARATSの枠組みでは、推進協議会の傘下にある複数のワーキング・グループを含め、1年間で約50回程度の産官学連携の会議を開催しており、その全体取りまとめを担



当しております。また、業務の範囲は国内での検討に留まらず、昨今のカーボンニュートラルの国際的な強い推進の流れを受け、航空局の先輩職員が議長を務める ICAO（国際民間航空機関）環境関係の会議に参画し、我が国がリーダーシップを発揮すべく議長の後方支援を担当しております。

4. 苦勞する点や、やりがいについて教えてください。

航空管制分野の国際舞台で活躍するためには、航空管制業務（航空保安大学校を卒業し、技能証明を取得した「航空管制官」しか従事できない。）そのものを理解する必要があります。私が所属する航空局交通管制部は、空港事務所勤務者含めて 4,000 人以上の現場職員で構成されており、総合職として勤務する私は、本省で一緒に仕事をするベテランの航空管制官等の方々から、従前のシステムや飛行方式について意見交換（時にはゼロから教えてもらったり）しながら、組織としての政策方針を整えております。

空の安全を第一に心がけ 24 時間・365 日輪番体制で管制業務を行う同僚達の思いを背負い、どうすれば航空管制がより安全により効率的なものへ進展するかを考える現在の仕事に大きな責任とやりがいを感じています。

5. 国土交通省を目指す方へのメッセージをお願いします。

国土交通省の運輸行政は、研究開発フェーズであった自動運転や小型無人機（ドローン）といった新たなモビリティが、皆さんの生活に還元される社会実装のフェーズへ移行する重要な時代を迎えております。新たなことにチャレンジする気概はもちろん、関係法令等の遵守と安全最優先の意識を徹底し、これまでの交通モードを支えてきた様々な事業者・当局の諸先輩方の思いを引き継ぐことのできる方の入省をお待ちしております。是非、国土交通省で一生に働きましょう！